

環境講習会

「よく知ろう、やってみよう あなたもできる エコドライブ」(H27.10.9)

講師：工藤航希氏（岩手県庁環境企画室）

エコドライブとは、自動車を環境に配慮して使用し、二酸化炭素(CO₂)の排出量を減らす運転を指す。具体的にどういったものか。昨秋、当協議会は岩手県庁環境企画室・工藤航希氏を招き、講習と運転の両面を行う『エコドライブ講習会』を行った。当協議会では初の試みだった。

はじめに、専用の機器を取り付けた車に乗り、役場一中尊寺間で自身の燃費ドライブデータを記録した。この際は、講習後と比較できるように、どのような運転がエコドライブとなるか、説明を受けず普段通りに運転した。



参加者は燃費計(写真ダッシュボード上)を取り付けた車両を運転し実践的に学んだ

運転後は会場に戻り、各自のデータが集計されている間、1時間ほどパワーポイントによるエコドライブの具体的な取り組み方の説明を受けた。その要点は「やさしい発進を心がけ、無駄なアイドリングを止める等をして燃料の節約に努める」というものである。

講習の後、再び同じルートを指導されたとおりに運転し、記録されたデータを先ほどのものと比較した。ほぼ全員の燃費データに改善が見られ、CO₂の削減ができた。

中には20%の燃費向上を達成した人もいた。最後に、講師やほかの参加者とどうしてこうした結果となったか要因を確認し、講習を終えた。

県では、2020年度までに1990年比30%の温室効果ガス排出削減を目標としている。地域の豊かな環境を後世に伝えるために、エコドライブは参加者が身近に実感できる環境対策だった。

大変好評だったので来年度も取り組みたいと思っている。その際には多くの方に参加してほしい。



講師から結果シートを買い改善点を議論した

～エコドライブのポイントは「5-5-5」～

- ①発進時、5秒間のふんわりアクセル
……5秒間で20km/h程度に加速、十分な効果
- ②目標速度を、5km/h抑制
……走ろうと思う速度を5km/hだけ抑えて、余裕の運転
- ③5秒の停止で、アイドリングストップ
……短い時間のエンジン停止でも燃費向上の効果あり



トピック

平成28年4月、法律の改正により家庭などに向けた電力小売りが全面的に自由化されます。

従来の地域ごとの電力会社だけでなく、消費者はさまざまな会社の電力を直接購入できるようになり、一般家庭が主体的に選択して電力を買うことができます。

資源エネルギーの循環利用施設等視察研修会 (H27.10.21)

化石燃料の代わりに木材を利用する木質バイオマスは、大気中の二酸化炭素濃度に影響を与えない特性を持ち、地球温暖化防止に寄与するもので、当協議会では今年度、「森林・林業日本一」のまちづくりを掲げる住田町を研修先とし、以下の2施設を視察した。

「住田町下有住地区木造仮設住宅」
しもありす

ここには63戸の仮設住宅がある。大震災直後の平成23年4月、国の予算を待たず、いち早く仮設住宅を完成させた。仮設住宅の必要な町民はいなかったが、住田は近隣沿岸に親戚や友人が多かったため、地元気仙スギ造りの木造一戸建て仮設住宅で被災者の方に温もりを届けることにした。

なぜ、住田は早期の対応が可能だったのか。

案内してくれた住田町役場林政課の多田課長補佐は震災前に①災害時仮設住宅構想を設計図含みで完成させていたこと②地域に一貫して流通と建設を行える人材、木材がそろっていたこと③隣の被災地への支援に町民の理解があったこと、の3つを挙げた。準備・人材・理解が揃ったことが課題の解決につながったと感じた。

震災当時から地域を支えてきた金野公民館長に話を聞いた。

直近の体育館に多くの被災者がいたこと、災害対策物資対応を行ったこと、全国から応援に訪れる人や励ましのお便りがあったこと一震災当時から現在までの話をつぶさに伺った。地区の方が寄り合える「みんなの舞台」が東京大学とMIT(アメリカマサチューセッツ工科大学)の学生によって作られ、仮設住宅にはWWF(世界自然保護基金)との「つながりぬくもりプロジェクト」として仮設住宅に太陽熱温水器が、音楽家坂本龍一が代表を務める(一社)モア・トゥリーズ支援プロジェクト「LIFE311」と共同で仮設住宅用小型ペレットストーブ『MT311 SUMITA』が設置されていた。様々な団体からの善意で、被災者支援が環境に配慮されて行われていることを知るだけでなく、これら住田の取り組みから持続可能な木質資源の可能性を感じた。



住田町下有住地区仮設住宅

ペレットストーブ
MT311 SUMITA

「住田町役場新庁舎」



住田町役場新庁舎とペレット暖房機

震災を機に、住田町は、^{キャパシティ}庁舎を建て替えた。庁舎が被災時の受け入れに容量が不足すること、また、築56年という老朽化からであった。木造2階建て「環境にやさしく防災の要となる」^{コンセプト}を観点の一つとし平成26年7月に事業費約12億円で完成した。庁舎は、木質ペレットボイラーによる冷暖房(再生可能エネルギー)、太陽光発電・LED照明・ソーラー街路灯(省エネ設備)、防災に使える町民広場(防災拠点機能の充実)・木のおもちゃを配したキッズコーナー等を設け、豊富な森林資源が循環できる地域社会の実現に向け、長期的な展望に立った取り組みを行っていた。

※住田町(<http://www.town.sumita.iwate.jp/>)



平泉駅構内の自前用ソーラーパネル

温室効果ガスは国境を超え地球全体に及ぶ問題であり、世界中の人々が一丸となった対策が求められます。

日本では、5年前に東日本大震災と原発事故が起き、その後太陽光発電や風力発電、水力発電などの再生可能エネルギーの普及が進んでいます。再生可能エネルギーは地球温暖化の原因になることもなく、枯渇する心配もないからです。私たちの住む平泉は、自然資源に恵まれています。これを活かして森林資源などの再生可能エネルギーを利用し、一人ひとりの行動から地球温暖化を止めることができます。

「環境の改善について、 私たちにできること」

平成27年3月19日役場会議室において、岩手県地球温暖化防止活動推進員の川邊弥生氏をお迎えし、『フードマイレージ・食べ物から温暖化防止を考える』と題して環境講演会を開催しました。

食料輸入の際に大量に発生してしまうCO₂が、地産地消によって削減できることが講演され、またビニールの買い物袋からエコ風呂敷などへの切り替えについて実演を交えて提言されました。



環境講演会開催

- 日 時 平成28年3月23日（水曜日） 18時30分～20時30分
- 会 場 役場2階 201会議室
- 内 容 「温暖化の最新情報」
- 参加費 無料
- 講 師 岩手県地球温暖化防止活動推進員 川邊弥生氏

地球温暖化対策に取り組む会員募集中!!

ひらいずみ地球温暖化対策協議会（略称：エコネット平泉）に入会して、温暖化対策と一緒に取り組みませんか。協議会の目的に賛同する個人・事業者・団体で地球温暖化対策に関心のある方、これから取り組みを実践してみたい方ならどなたでも入会できます。

■ 会費 ■ 個人会員 500円 事業者・団体会員 1,000円

入会を希望する方は、お気軽に協議会事務局にお問い合わせください。

事務局 平泉町役場町民福祉課内 TEL 0191-46-5562



eco エコ ひらいずみ

ストップ! 地球温暖化

発行
ひらいずみ地球温暖化対策協議会
(略称：エコネット平泉)
平成28年3月1日
(事務局)平泉町役場町民福祉課内
電話 0191-46-5562 FAX0191-46-3080
メール chomin@town.hiraisumi.iwate.jp

ひらいずみ地球温暖化対策協議会とは

町民と事業者、行政などが、互いに連携、協力しながら、それぞれの立場において地球温暖化防止に取り組むための組織です。

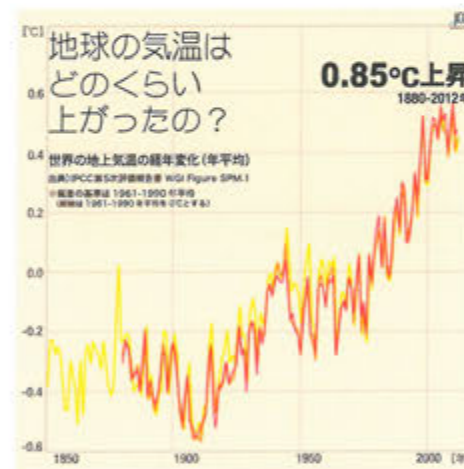
活動内容

- 地球温暖化対策の学習・教育活動の推進（意識啓発と実践活動のきっかけづくり等）
- 地球温暖化対策に関する普及啓発活動（省エネ・節電対策等普及啓発活動）
- 会員相互の情報交換・研修

◆地球温暖化の背景◆

気象庁は昨年12月、平成27年の世界の平均気温は、1891年の統計以来、最も高くなったと発表しました。年々暑くなっているように感じている方は少なくないと思います。どうしてこうした気温上昇が起こっているのでしょうか。

それは、私たち人間社会の発展と関係があります。現在、世界全体では石油・石炭などの化石燃料を使ったことで発生するエネルギーを使用しています。化石燃料を使用すると水蒸気、二酸化炭素(CO₂)、メタン(CH₄)などが発生します。実はこれらは、温室効果ガスとも呼ばれ、地表から放射された赤外線の一部を吸収するはたらきがあると知られています。つまり人類が20世紀以降化石燃料を使用し温室効果ガスを放出し続けているため、温暖化が起きていると考えられているのです。事実、右図のように、ここ100年間の世界平均気温は上昇し続けます(出展：全国地球温暖化防止活動推進センター<JCCCA>ウェブサイト<http://www.jccca.org/>より)。



地球温暖化によって、日本では急な大雨や巨大台風、竜巻など、異常気象や災害がたくさんおこっています。世界でも干ばつや大規模な山火事、熱波により人命が奪われるなど、今までにない被害です。

未来にむけて

地球温暖化の被害を食い止めるため、昨年12月12日フランス・パリで開催されたCOP21(気候変動枠組条約第21回締約国会議)にて『パリ協定』が採択されました。これは平成9年のCOP3で採択された京都議定書に続く、新たな世界的温暖化対策の協定でした。(4ページに続く)

